



第22回東北6県・北海道親睦演芸祭

東北ブロック演芸祭総合で3位に!

10月9日(日)午前9時より「第22回東北6県・北海道親睦演芸祭」が宮城県人会館にておこなわれ、芸能を楽しみながら東北ブロック県人会の親睦交流が今年も盛会であった。

千田大会委員長(担当県)の挨拶で開幕。民謡の部(各県3名)、童謡の部(同2名)、歌謡の部(年齢別カテゴリー同6名)で競われた。

特別出演には歌謡で前年優勝した方々がショーを披露、岩手は2年近く練習に励んでいる

太鼓グループ「雷神」が大衆の前で練習の成果を、26人が2部に別れて初披露。ヤンヤの拍手を受けた。

総合は微点差で山形県が優勝、北海道、岩手、福島、青森、宮城、秋田の順であった。岩手は昨年最下位であったが歌手



岩手太鼓グループ「雷神」

皆さんの健闘で総合3位は大躍進だったと喜んでいる。

岩手の入賞者は、童謡で滝谷アケミさん3位、塚田修吾さん歌謡80歳の部で3位、菅原英一さん歌謡70歳の部で3位でした。

ブロック演芸祭は県人の枠を越え、横の親睦を目的に始まって以来、3年前からブロック青年部主催により年一回の運動会も行っている。

昼食は業者を頼もうとの事であったが、青年部から「美味

しいものを作るからと申し出があり」売店をお願いした。共同作業に参加した青年は「美味しいものを作りながら、交友の輪も広がり楽しい」との感想。裏方は勿論、ビンゴや福引で青年部が催しを盛り上げた。

岩手県新地図

35市町村に合併

(岩手日報発) 岩手県は来年3月までに自治体合併により58市町村から35市町村に再編される。

また合併により旧名が無くなり洋野町、八幡平市、西和賀町、奥州市と新名が出現、昔から長年親しんだ町の呼び名がかわり、おらが町・村が特に故郷を思う海外組には戸惑うことと思います。

新市や新町誕生により、人口の分布も塗り替えられ、盛岡市は30万(端数切捨て、以下同)奥州市13万、一関市13万、花巻市10万などとなります。

(資料) 岩手県内市町村数の変遷＝岩手には645の町村があったが、明治21年大合併訓令により、翌年1市17町241村となった。以後昭和や平成の大合併などにより県図のように、13市16町6村となる。



ドラマ「ハルとナツ」を観て

鈴木 直志様より

(テレビ岩手アナ)

昨夜最終回の、NHKドラマ「ハルとナツ」を感激しながら観終えました。とても感動的なドラマでした。同じような苦労や思いはそちらで暮らす皆様が必ずもたれたのでしょう。

先人の歩まれた苦難は、簡単には言葉に出れないものだったろうと推察します。涙が止まりませんでした。

皆様のご活躍ぶりは、送って頂く県人会ニュースやホームページで読んでいます。先日取材で行ってきた八幡平から見た岩手山の写真を送ります。

高橋 裕明様より

(農協観光・金ヶ崎出身)

先日NHK放送80周年記念ドラマ「ハルとナツ」が5回シリーズで放送されました。

内容は、ブラジルへ移住した一家の物語で、苦労された先人皆様の様子を描いた感動する作品でした。

いま岩手では、秋の稲刈りが盛んに行われており実りの秋を迎えました。今年の米は品質・収量共に平年並との事です。山は次第に紅葉が始まりました。

杉村 新様より

(駐伯3代公使の孫)

「ハルとナツ」によって、ブラジルに関係なかった人達も、少しは知ることになったようです。今日も僕のある友人に、送って頂いたニッケイ新聞の添付ファイルとファックスとを見せると「あちらには、日本新聞があるのですね」と驚いた様子でした。

この人は、ブラジルの事を知らない特別の人ではなく、かなりの日本人が、ブラジルについて、無知なのだと思います。僕もせいぜいブラジルについて宣伝しようと思っています。とりあえずお礼を申し上げます。

稲葉 比呂子様より

(県文化国際課長)

「ハルとナツ」は1・2回目の放送を見逃し3回～5回分の放送しか見ておらず、本当に残念です。

ブラジル訪問時に移民史料館を見学したときに、畑さんが熱心に説明して下さいたとおりの状況が放送され、引き込まれるように見えました。

何回目だったか、ハルが「私たちは、日本に捨てられたのさ」と言った言葉が心に強く残っています。

戦争を機に、日本人同志の対立があったこ

と、終戦後は「勝ち組」と「負け組」の対立があり「勝ち組」は何年経ても勝ったと信じ続け、今上天皇陛下の御成婚の映画を見て、日本は勝った証拠であると信じたことも心に残っております。

そして、最終回でハルとナツが再会を果たしブラジルに帰る前に、孫に「卒業したらブラジルに帰っておいで」と話しかけ、孫が額くシーン、まさに苦労はしたがブラジルに来てよかったとハルが感じているからであり、この思いは菊地さん(モジ)宅を訪問した時に、菊地さんからも同じ思いをお聞きしたことで重なり私も嬉しくなりました。

お送り頂いた新聞記事で、作品の収録にブラジルの方々が協力していた事を知り、改めて、ブラジルに移住された方々の、この作品に対する思いも感じました。



「ハルとナツ」より

これを機会に、私ども日本人は南米への移住政策の意味、南米との関係等を改めて考える必要があると感じています。また、3世4世の方々にとっても、当時の状況、移住を決意された一世の方々の思いを知る、よい機会になったのではないかと思います。

ところで、ナツはなぜ移民船に乗船出来なかったのですか?。回想の場面で、船が出帆する時にハルとナツが引き離されるシーンが何度か放送されましたが、教えて頂ければありがたいです。会報で放映についてお知らせ頂いているにも拘わらず2回分を見逃した不注意をお詫び申し上げながら「ハルとナツ」の感想と致します。

吉田 恭子様より

(盛岡)

テレビ放映まずまずでした。神戸の出航場面は戦後の様子ですね。ブラジルでの一コマ一コマもきっと戦後の移住を参考にした場面が多かったのでしょう。

多くの日本人は、詳しいことを知らないの、ほとんど疑問を持たないで画面に釘付けになったのではないのでしょうか。特に、ハル

やナツと同年代の方々。苦米地さんの女学校の同期の方々や母は熱心に見ました。

NHKだから制作できた番組だったと思います。プロドューサーにも感想文を送ろうと文案を練っているところです。

苦米地さんにお会いできることになって何よりです。毎日手紙をと思いながら、実行出来ないであります。私からも宜しくとお伝え下さいませ。

小田島 栄様より

(県国際交流協会理事長)

ハルとナツの記事を送って頂きありがとうございます。撮影などの記事を興味深く拝見させて頂きました。

私も、ブラジルを訪問しお会いした皆様を思い出しながら、テレビで観ていましたが、移住された方々の、言葉では言い尽くせない様々な苦労があって、今があるということ、忘れてはいけないと思いました。

ブラジルは、これから夏に向かうと思いますが、こちらはこれから長～い冬に向かいます。ご自愛下さい。皆様お元気で。

菅原 圓雄様より

(花巻市)

NHK記念番組「ハルとナツ」は、周囲の方々も良く観ていたようです。

御地では、当然自分達の身近な問題として、その反響は大きかったと存じます。記事を一読した限りでは、戦前と戦後の移住者の言葉には、やはり差を感じられるように思いました。

作者の橋田さんも苦労したでしょうが、良く書けていると思いました。だが、現地での生活の実態はあのような生易しいものではなく、コロナ住宅のセットも古さを出してはいたが、綺麗過ぎではと思いました。一般的には、日本からの移住者は、一旗上げて故郷に錦を飾る気持ちが強く、欧州からの移住者のように、住宅を固めてから畜産や永年作物をじっくり育てる気風が薄いのか、欠陥しているのではと思われる節があったのではと感ぜられます。

定住を決めた戦後の移住とに大きな変化があったように思われてなりません。しかし、例えば、コチア青年等の独立や経営の拡大等を見聞きすると、そうとばかり決めつけることの出来ない面もあります。

でも、現地でなされた、あの想像に絶する苦労と家族愛や日本人としての心を持ち続けていることについては、現在日本に住む多くの方々には、自分達に忘れかけていた、心の空洞(欠落部)を間違いなく気付かされたと感じているところだと思います。

サロン文協美術展



服部葉子「夢」

服部さんに奨励賞



去る19日から開催された「サロン文協・美術展」に県人会員の服部葉子さん（旧姓柳原・花巻）が、特別奨励賞を受けた。作品は3点一対で「夢」を表現したもの。

服部さんは13歳で家族と移住。絵画は1988年から文協絵画教室で勉強。8回の展示会に出品し2000年から5回入賞している。

お知らせ

忘年交流懇親会

12月11日（日）午前11時より「忘年会」と併せて「第30回高齢者懇親会・70歳以上（9月～12月生まれ）の誕生会」も行われます。

毎度のことですが「持ち寄り」をお願いします。
詳しくは、追ってお知らせ致します。

「報告」

県人会では、05年度県人会行事などの映像記録を撮り続けておりますが、内容の充実をと地方取材（サ州奥地・パラナ州）を8日間（計2100km）かけて10名余を取材しました。

中には突然の訪問にも拘わらず、快く取材に応じて頂いた皆様に心から感謝申し上げます。また、撮影者畑氏・自動車提供の藤村副会長ご苦労さまでした。

（参照 関連記事）取材者名（敬称略） 茂庭トク・エリカ、伊藤タエ子（バストス）、苫米地静子（パライゾ・ド・ノルテ）、味田のり子（パラナバイ）、佐藤夫人（ロンドリーナ）、及川あい子（ジャタイジンニョ）、富沢家族など（カストロ）

県人会の動き

（2005年10月）

2	昨日に続き東北演芸祭プログラム作成作業を、会長、多田副会長、昆野会計、山道事務長で。	☆ 藤村副会長、畑氏映像取材に出張。
3	役員会通知発送。 ☆ 野崎氏病気の為、木幡紘氏ゼラドールとして就労。	☆ モルンビー区の公邸で西林総領事招待昼食会に会長出席。 ☆ 婦人部集会。
4	花巻市国際交流室布臺一郎主査より、ビデオレポート受領の礼状受信。 ☆ 三上良三氏より俳句雑誌一箱を県人会へ送付した旨の便り。	20 服部洋子さんサロン文協で特別奨励賞受賞の報。
6	多田マウロ副会長よりポ語会報原稿を受信。	21 会報133号を国内外へ発送。 ☆ 神奈川の賛助会員増田稲子さんより料理本など寄贈を受ける。 ☆ 会長県連執行部会に出席。 ☆ 夜会長パラナ州に出張。藤村氏・畑氏と合流。
8	定例役員会開催、議題は温泉旅行報告、第9回日本まつり、県人会50周年、ビデオ地方取材。	22 苫米地静子さん、午後パラナバイ在の味田のり子さん（旧姓八重樫・花巻）をビデオ取材。 ☆ 秋田県人会45周年式典に及川益夫理事出席。
9	東北演芸祭を宮城県会館にて開催。	23 富山県人会45周年式典に高橋信夫理事出席。
11	会報原稿をニッケイ印刷へ入稿。	25 苫米地様へ取材礼状発信。
12	祝日＝子供の日、アパレシーダの日。	26 菅原圓雄氏よりFAXのお礼とドラマ「ハルとナツ」の感想など受信。
13	杉村延広氏よりメール受信。	27 苫米地様より映像取材の礼状受信。 ☆ 県連執行部会へ会長出席。
14	ニッケイ紙に東北演芸祭記事。	☆ 藤村副会長・畑映像作家、地方取材から帰聖。ご苦労さまでした。
15	県国際課稲葉比呂子課長、杉村新氏などからドラマ「ハルとナツ」記事に関する感想や礼状。	28 栃木県人会で行われた県連代表者会に会長出席。
16	大阪なにわ会創立40年昼食会に会長夫妻出席。	29 東北演芸祭収支決算書を多田副会長・山道事務長にて作製。
17	馬場より子様（盛岡市在）より、絵本、物語本の寄贈あり。3回目の送付。多謝。	
19	馬場様へ礼状発信。 ☆ 会員へ行事のお知らせを発送。	

寄付・寄贈

レストラン「ごんべ」様 一金 200レアイス
馬場 より子 様 児童書籍 1箱
増田 稲子 様 料理書籍など 1箱
畑 勝喜 様 コーヒーポット

会費納入者名

（敬称略）

熊谷 巖、高橋義見、
児玉久男、河西 京、
梅田 清、



県人パイオニアと研修生を訪ねる ビデオ収録の旅

サンパウロ州奥地とパラナ州へ

岩手県人会では、移民の「語り部」として、県人パイオニアたちの証言を後世に伝える為、また、地方在住の元留学・研修生たちが日本で学んだ事をどのようにブラジルで活かしているのかの追跡調査の意味も含め映像による取材を行っている。

今回は、8日間で走行距離2,100 Kmに及ぶ取材行となった。

文 畑 勝喜 ・ 写真 藤村 光夫

2005年10月19日、朝、藤村副会長の車でサンパウロを出発、夕方ツッパンのホテルにチェックイン。ここは2003年県人会創立45周年に、母県から派遣された民謡使節団一行と泊まった、思いで深いホテルである。

10月20日、この日は終日バストスで取材、午前中は江差出身、伊藤タエ子さん（85才）の、古い写真を見せて頂く。

午後は、北上出身の茂庭トクさん（88才）を取材。生家は当時の黒沢尻で手広く魚屋を、二軒も経営し何不自由なく育てられたトクさんであったが、父親阿部仁三郎さんの人の良さから売掛金が増えて店は倒産。トクさんは16歳で盛岡の大本教に入った。この時、妹さんはよそへ育て子として引き取られ、姉妹は別れ別れの道を歩むこととなった。「私の人生は“おしん”そっくり」と語る所以である。

トクさんは19才で結婚、父母、兄等と共にブラジルに移住し、モジアナ線のコーヒー園へ入った。渡伯時、当時東京で行儀見習をしていた妹さんと上野公園で再会。別れを惜しんだが、妹さんは号泣し、いつまでもトクさんを離さなかったと云う。そして、渡伯後の生活は言葉では表せない苦難の日々が続

くのだが、それを救ってくれたのが、大本の教えであったと云う。

バストスに住んで67年、そして47年振りで日本へ行き、妹さんと会いお互いの再会と無事を喜びあった。

先頃NHKで放送された「ハルとナツ」を地で行く様な物語である。

トクさんは11人の子宝に恵まれ



伊藤久子さん

たが、男子二人を亡くしている。トクさんにこれまでの人生で幸せだった事を問うと「47年ぶりに日本へ行ったのが一番、今こうして元気に生きていられるのが二番」という返事が返って来た。ブラジルに根付き逞しく生きる88歳である。

また、このバストス市内には、1993年度研修生として盛岡の岩手県立中央病院で研修を受けた、トクさんの孫娘、茂庭エリカさんが病理検査のラボを営んでいる。日本の進んだ技術を取り入れ、4年前にオープン。

日本への研修時からの夢を実現した。



バストス50周年記念碑

て造られた移住地で、当然日本人が建設したところ。ところが、原始林を切り拓いて作った「農地」がアレイヨン（砂地）であった事から、農作物栽培には向かず、養蚕と綿作に力が入れた。そして、1935年頃には綿景

気に沸き、また、1944年頃には生糸が活況を呈したが、いずれも太平洋戦争の影響を受けて衰微。戦後、台頭した養鶏によって現在のバストスは支えられている。

昨今の出稼ぎブームに乗って、バストスからも若者を中心に現在1500人が日本に出稼ぎに行っており、送金したお金で建てた立派な住宅が並び、商店街には日本の都会で見えるようなシャレた喫茶店や軽食堂も出現し、出稼ぎから戻って来た若者たちによってバストスは若返り、新しい町になってゆく様に感じられた。

だが、このバストスを支えている大規模な養鶏業界は、今アジアからヨーロッパに向けて猛威を振るっている、鳥インフルエンザの影響で、養鶏場は、どこもピリピリとした緊張につつまれていた。バストスの養鶏業界が、この影響を受けることのない様祈りたい。

(つづく)

エリカさんは「本当に楽しく、実り多い研修でした。どうかいつまでも続けてほしい制度です」と語っていた。

10月21日、この日は午前中養鶏場や移民資料館、バストス市内を撮影。街灯の傘や歩道の敷石までが卵をモチーフにしたデザインで、今更ながらバストス市が養鶏でもっているところだと実感。

昼食後、次の取材地であるパラナパイへ、州境を越えて移動した。

バストスは、1928年（昭和3年）ブラジル拓殖組合（通称ブラ拓）によっ



茂庭トクさん、エリカさん

バストスの取材に際して、次の方々のご協力を頂きました。
鶴 勝様、ロベルト 鶴様（北海道）、伊藤 久子様（岩手）、
紙上を借りて御礼申し上げます。

IMPRESSO



蔵美溪
一関より西万約8km、昭和2年9月5日名勝及び天然記念物の指定を受け保護されている。栗駒山に源を發し、深谷大川の滝をなし岩石の起伏学術上貴重資料として風穴をもち48滝の名滝の景観は訪れる客の絶賛を博している。

栗駒国立公園
栗駒山は斑鳩火山帯に属する奥羽山脈の中央に位し、岩手、宮城、山形、秋田の4県にまたがる標高1,627mのコニーテ型の休火山である。一般のコニーテ火山に見られるように長く裾を引き山懷が深く、原生林、深谷、火山湖、溶岩体など変化に富み、しかも山懷から頂上までよく自然が保たれ未開發十分な山である。そのため原始性が高く動物や鳥類の生息を育成しているといえる。山頂からの展望は広く、東方に室根山、金華山、太平洋、西方に鳥海山、月山、南方に蔵王、吾妻連峰、北方に焼石岳、岩手山と東北の名山はことごとく眺望できる。



Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil

ブラジル岩手県人会

RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL

TELEFONE 55 (11) 3207-2383 - FAX 55 (11) 3277-0403

www.iwate.org.br - e-mail: iwate@iwate.org.br